

賞 さくら日和

(校長室より)

令和六年十二月二十三日発行
吉野さくら学園
校長 山田 真路

No. 2 1

小学校六年生卒業証書づくり

和紙の原料である楮(こうぞ)の木を育てる。今年伸びた楮の枝を刈り取る。枝を煮る。枝の皮をむき、汚れを取る。薬品を使って繊維をほぐす。ほぐした繊維をたたいてばらばらにする。和紙を漉く。

最後の、和紙を漉く作業は、全国各地にあるいくつかの学校で行われていると思いますが、紹介した全ての工程を経ている学校は、全国各地でも本校だけと言ってもいいかもしれません。吉野町の小学校で、四十年以上続いてきた伝統ある自分だけの卒業証書づくりです。保護者の皆さまのなかに、ご自分の手で漉いた卒業証書をお持ちの方が数名いらっしゃることと思います。

今の寒い時期を利用して、吉野町で紡がれてきた和紙づくり。小学校六年生は、水が冷たい、寒い、と言いながら、自分だけの卒業証書づくりのために、がんばっています。

この卒業証書づくりのために、福西和紙本舗の福西正行さんにたいへんお世話になっています。十二月十九日に福西さんのご指導のもと、吉野小学校校章のすかし入りの卒業証書を漉きました。三月十九日の小学校卒業式に、証書を授与いたします。それまで、しばらくお預かりします。

手紙

十二月五日木曜日、小学校五年生の国語の授業研究会がありました。これは、本校が奈良県の「学力育成実践研究事業」の指定を受け、主体的に学びに向かう児童の育成をめざして、指導と評価の一体化につながるICTの活用」という研究テーマを立ち上げて、これまで授業づくりをすすめてきたことを、他校の先生方にも観ていただくというものです。

当日までに、五年生は、「読み手に喜んでもらえるお礼の手紙は、手書きがよいか・パソコンで作成するのがよいか」について、自分の立場を決めました。そして、自分の考えを相手に納得させる文章を完成させるため、説得力のある理由や根拠を考え、文章化していききました。

そして、この日の授業のめあては、「違う立場の友達と意見を伝え合い、予想される自分の考えに対する反論とその説明を考えよう」というものです。

皆さまは、どちらの立場でしょうか。

五年生は、タブレットを手にしながら、友達と意見交換をしました。自分の考えを伝え、友達の意見に耳を傾けるといった、本時のめあてに向かって自分の学習を自分で調整する風景が見られました。

授業後、他校の先生方から貴重なご意見をたくさんいただきました。

子どもたちには、自ら学び続けることのできる人、自ら考え、判断して、行動できる人になって欲しいと思っています。手書きのよさ、ICTのよさをともに活用し、子どもたちが、豊かな人生を自分の力で切り拓いていけるよう、本校での学校教育の積み重ねをしていきたいと思っています。数日後、ある学年の人が、私に手書きの手紙を届けてくれました。

いつもバスでどうこうするときをふっつてくれて、ありがとうございます。いろいろなひとがばかばかします。

中学校2年生矢部清流学園との交流

十二月十一日水曜日、福岡県八女市にある矢部清流学園八年生の生徒二名と先生方が来校されました。三泊四日の修学旅行で吉野町を訪れ、本校と交流するという行程を組んでいたからです。今から約七百年前の南北朝時代、吉野の地に南朝を興した後醍醐天皇が、味方を集めるために皇子を九州に派遣しました。これに関する旧跡、文化が八女市に残っていることが、八女市と吉野町の友好交流都市協定につながっています。

このことを矢部清流学園八年生はしっかりと調べて今回の来校に臨んでくれました。学校周辺にある名所、名物をキャラクター化したものをプランでストラップにして、本校中学校二年生全員にプレゼントしてくれました。お互いの地域の紹介、交流ゲーム、郷土愛をテーマにした合同道徳授業、合同給食をしたあと、記念撮影、全員で見送りという交流でした。

矢部清流学園の先生方は、交流してくれてありがとうございます。と何度もおっしゃっていました。いろいろな地域を知ること、自分の住む町について知ることができたことと思います。中学校二年生の皆さん、当日までの準備、当日の交流に力を出してくれてありがとうございます。